

1	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15107001	既知および未知の細胞間シグナル分子による植物形態形成の調節	柿本 辰男 (大阪大学・大学院理学研究科・助教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>複雑な体制をもつ高等植物の形態形成を細胞間シグナル分子に着目してその合成、受容の分子機構、さらにそれにかかわる遺伝子レベルの作用メカニズムを解明しつつある。</p> <p>これまでの進展状況は概ね妥当である。論文数がまだ少ないが、このような新しい開拓分野では、当初は研究の目的が絞られているほどそのようになる可能性が高いので、論文の質の高さからむしろ積極的に評価してよい。今後、一挙に論文が多産される可能性を期待したい。</p> <p>植物の形態形成を制御しているサイトカニンに関する、これまでの研究代表者の成果をベースにサイトカイニンの合成、受容体の分子機構を遺伝子レベルで解明し、ペプチド性シグナルについてもシグナル伝達に関する新しい分野の開拓へとつながる重要な研究である。</p>				
2	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15107002	遺伝情報系と細胞シグナル系における超分子複合体の立体構造と機能	横山 茂之 (東京大学・大学院理学系研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>ヨードチロシンを認識する変異チロシル tRNA 合成酵素の構造解析による、ヨードチロシン認識能の獲得、チロシン認識能の喪失の構造的基盤の解明 (PNAS 05)、パラベンゾイルフェニルアラニンの導入による目的タンパク質と相互作用する標的タンパク質同定法の開発 (Nature Methods 05) など研究は概ね順調に進行しており、本基盤研究が動的な超分子複合体の構造研究においてもプロダクティブであることを期待する。</p>				